

# 化学科講演会

令和元年10月18日(金) 15:00-16:00

理学部1号館414室(化学第二講義室)

## 肺癌治療の変遷と薬剤耐性、 そして糖鎖研究へ

日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野  
助教 中西陽子博士

肺がんは予後不良な難治性疾患であり本邦のがんでも一位の死亡率を占めています。しかし近年、がんの発生と進展に寄与する遺伝子変異の発見により、分子標的薬が加速度的に開発され効果を奏しています。また、分子標的治療の対象とならない患者も、2018年にノーベル賞を受賞された本庶佑博士により発見された免疫チェックポイント阻害剤による治療が期待されています。ただし、これらの治療は誰にでも適応するわけではなく、患者の選定基準が細かく定められており、コンパニオン診断と言われるバイオマーカーの検査によって判定されています。しかし、これらいずれのバイオマーカーも検出されず、効果的な治療法を見出せないでいる患者さんもおられます。

基礎研究の進歩に伴うがん治療の劇的な変遷について、また、治療効果を低減させてしまう様々な薬剤耐性の機序について解説し、現在、薬剤耐性についての病理学的糖鎖研究をどのように展開しているのかについてお話しさせて頂く予定です。



ご来聴を歓迎します。

問い合わせ先：相川京子(理学部化学科)  
aikawa.kyoko@ocha.ac.jp